

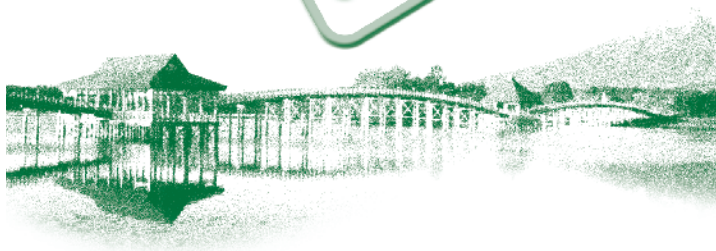
戦没者の追悼と世界平和を祈念

終戦から 76 年を迎えた 8 月 15 日（日）、町国際交流会館において、令和 3 年度鶴田町戦没者追悼式の中止に伴う献花が挙行されました。先の大戦で犠牲となった戦没者 457 人の冥福を祈り、平和な世界が続くことを祈念しました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、例年行われている追悼式の規模を縮小し、式典は行わず献花のみが行われました。献花に訪れた 33 人が献花台に花を捧げ、戦後 76 年が経過した今、悲慘な戦争の記憶を風化させることのないよう、恒久平和への願いを新たにしました。



△町遺族会の宮本会長が献花をしているようす



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線 262）までお知らせください。

家族と一緒に楽しんで

新型コロナウイルスの影響で花火大会が中止となる中、子どもたちに笑顔でお盆を迎えてほしいと、8 月 7 日の「おもちゃはなびの日」にちなんで鶴田ライオンズクラブ（小野貢誠会長）が町内の保育施設に通う園児 372 人に手持ち花火セットを贈りました。

同クラブは子どもたちが自然と触れ合えるように約 10 年にわたって町内の保育施設へカブトムシの成虫を贈っていました。昨年に花火を贈り、好評だったことをうけ今年も花火を贈ることを決めました。

ひなづる幼稚園で贈呈式が行われ、小野会長は「今年も花火大会が中止になりましたけど、お家で家族と一緒に花火を楽しんでください」と話し、園児に花火セットを手渡しました。



△園児たちに手持ち花火を手渡す小野会長

捨てられるものを再利用

8月8日(日)、「NEXT + つるたプロジェクト」による小学生を対象にした ECO クラフトワークショップが開催されました。

この取り組みは、環境に配慮した社会づくりを目指し、自然の中にあるものやゴミとして捨てられるものを材料にした工作を行うワークショップです。

企画立案者の鶴田高校2年生の太田紗愛さんは「コロナ禍でイベントなどが中止になっている子どもたちの夏休みを楽しいものにしたいと思い、今回企画しました。また、子どもたちに材料を探す過程で、普段暮らしている町について興味を持ってもらえるきっかけになればうれしいです」と話していました。



△一生懸命作品を仕上げる子どもたち

共生社会への願いを込めて

8月16日(月)、東京2020パラリンピック聖火フェスティバルの開催に合わせて、社会福祉法人共生会(三上孝生理事長)「飛翔食房」で「聖火ビジット」が行われました。

「聖火ビジット」とは、三内丸山遺跡で誕生した「青森県の火」から分火した聖火が各所を訪問することを呼びます。

当日は相川町長とつるりんが聖火を持って登場。町長から聖火が施設利用者へ手渡されました。三上理事長は「パラリンピックの理念を通して、共生社会への理解につながることを願っています」と語りました。



△聖火の前に共生社会実現を誓う三上理事長(左)と相川町長(右)



Vol.38 (筆: 川口翔大)

今年の夏は去年に比べると幾分か過ごしやすいいように感じますね。最近、奥津軽アイディアソンという県民局主催の企画に関わっています。参加者同士、地域でやってみたい活動を企画して、採用された案を実際にやってみようというものです。地域活動そのものを実行するとともに、近隣市町村のキーマン同士のネットワークをつなぐ狙いもあるとのこと、僕自身参加者の方と交流できてとても有意義な時間でした。人と人をつなぐというミッションのためには僕自身が人とつながることが最初の一步でもあると思うので、今後も近隣地域の動きにはアンテナを張っていようと思います！



△奥津軽アイディアソンでの交流のようす

川口さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。